

番組

仕舞

花 高林昌司
鶴 佐藤寛泰

狩野祐一
塩津圭介
大島輝久
佐藤陽

能

金子龍晟

谷友矩

友枝雄太郎

敦盛

工藤和哉

山本凜太郎

柿原孝則

森澤勇可

一噌隆之

龍田

高林昌司

佐藤寛泰

塩津圭介

佐藤陽

日本六十餘州の神社仏閣に納経を口指し、各地を廻る僧が河内国を口指していました。途中、龍田明神へ参詣するために龍田川を渡るうとする、一人の里女が現れ、「龍田川紅葉乱れて流るるり、渡らば錦中や絶えなん」という歌をひいて僧を止めます。僧は、今はもう紅葉の季節ではなく、川には薄水も張っている時期であるからと、言って渡ろうとしますが、里女は「龍田川紅葉を閉づる薄水、渡らばそれも中や絶えなん」という歌もあると答へ、別の道から明神へ案内します。すると冬枯れの景色の中に一本真っ赤に紅葉した木がありました。不思議に思った僧がその木について尋ねると、その木が御神木であり、実は自分こそが龍田姫の神霊であると名乗って、里女は社檀の中へ姿を消してしまいます。その夜僧が社前で祈りを捧げていると、龍田姫の神霊が姿を現します。龍田明神の縁起を語り、神楽を舞い始めます。そして、龍田川の紅葉の美しさを賛美してそのまま昇天していくのでした。

柿山伏

山本泰太郎

山本則重

狂言

休憩二十分

能

狩野祐一

常好

館川善博

野口能弘

山本則秀

柿原光博
飯冨孔明

金春國直
小野寺竜一

龍田

狩野了
佐藤寛泰

金子龍晟
谷友矩
塩津圭介
高林昌司

佐々木多門
友枝雄人
中村邦生
内田成信

休憩十分

能

佐藤陽

猩々乱

則久英志

田邊恭資

林雄一郎
栗林祐輔

栗谷能夫
狩野祐一

金子龍晟
友枝真也
栗谷浩之
友枝雄太郎

栗谷充雄
狩野了
栗谷明生
高林伸

五時頃終了予定

敦盛(あつもり)

源氏の武士熊谷次郎直実は、一の谷の合戦で当時十六歳の平家の公達平敦盛を討ち取ったのち、あまりの痛ましさに無常を感じ、出家して蓮生法師と名を改めました。彼は敦盛の亡き跡を弔うため、再び一の谷へ赴きます。すると笛の音が聞こえ、草刈男たちが現れます。笛の話をしているうちに草刈男たちは帰っていきませんが、その内の一人だけは法師の前に残りません。法師は不思議に思い、訳を尋ねるとその草刈男は自分に念仏を授けて欲しいと述べます。法師が念仏を唱えると、毎日法師が敦盛に念仏を唱えていることに謝意を述べ、実は自分こそが敦盛の霊であるという話をほのめかして姿を消します。夜になり、法師は念仏を唱え、敦盛を弔っている、武將の姿をした敦盛の霊が現れます。敦盛は平家一門の栄枯盛衰を語った後、今様を謡い、笛を吹いた最後の姿を懐かしみ舞います。やがて敦盛は合戦での自らの最期を再現し、更なる弔いを頼んで消えてゆきます。

猩々乱(しゅうじょううみだれ)

中国の金山の麓に高風という者がいました。彼はたいそう親孝行者であったために、夢の中で、揚子の市に出て酒を売ると宜み栄えるというお告げを受けました。それに従うと、次第に彼はお金持ちになりました。すると、童子が一人店へやってきました。彼は酒を次々と飲んでいきますが、一向に顔色を変えず酔う気配もありません。不思議に思った高風が名を尋ねると、海中に住む猩々であると言乗り姿を消します。高風は海陽のほとりで酒壺を用意して猩々が現れるのを待つことにします。やがて猩々が現れ、高風と丹びかえたことを喜び、壺を傾けます。猩々は限なく輝く月星を背にし、口の葉が風に吹かれて笛のようになり、響く音色や、鼓のようにはやく波の音にのって舞い始めます。そして、高風には酒が尽きることなく湧き続ける壺を授けていきます。酔いも進み、高風が目を覚ますとその酒壺だけが残り、その後も彼の家は末永く栄えていきました。猩々の原曲はもともと前後の場面からなる儀式能でしたが、近年では前場を省略し海陽で高風が猩々を持つ場面から演じられることが常の型となっています。また、猩々乱は通常の猩々における中の舞を舞わず、足遣いが特徴的な演出に変わります。